

日本共産党議員団ニュース

【No. 546号】日本共産党伊勢原市会議員団 2019年7月21日

宮脇俊彦 94-7584 Email:jcp.isehara.miyawaki@gmail.com

川添康大 45-0596 Email:yasuhiro.k120@gmail.com

事務所 TEL・FAX:93-1169

HP: <http://isehara.kir.jp/kyou01.html>

議員団ニュース544号に続いて、伊勢原市6月議会で行われた宮脇俊彦議員の一般質問を報告します。

市会議員選挙低投票率の要因は



質問・・・市議会議員選挙は、市長と並ぶ二元代表のもう一方の市議会議員を選出する大切な選挙です。投票率低下をどう考えているか。

答弁・・・市議会議員選挙の投票率は平成19年の50.37%から平成31年度は44.97%と毎回低下が続いています。投票率の低下は選挙が民主主義の根幹である重要性をかんがみると大きな課題と認識しています。

質問・・・憲法に規定する国民・市民が主権者、主人公であることを考慮すると、民主主義の危機を示しているのではないかと。投票率低下の要因をどう考えているか。



答弁・・・国の調査によると「選挙に行かな

かった理由」は多い順に「選挙に関心がない」「仕事があったから」「適切な候補者がいなかったから」となっている。投票率低下の要因は市でも同様と認識している。



投票率向上に向けた対策は？

質問・・・投票率向上の対策をどう考えているのか？

答弁・・・主権者教育や投票しやすい環境整備を行なっていく。

投票所まで遠い地域に住む人の対策を

質問・・・投票所まで遠い地域に居住している人が投票しやすい環境整備が必要ではないか。今回の投票結果を見ても、投票所まで2キロメートル以上離れて住んでいる人が多い大田公民館投票所（39.08%）、比々多公民館投票所（37.23%）はいずれも投票率が30%台となっています。

従来は車で投票所まで出かけていた。しかし、高齢者に伴い免許を返上した。そのため投票所まで行くことが困難になっている高齢者が出ています。何らかの対応が必要ではないか。例えば投票所を増やす、投票所まで1.5キロメートル以下に



する。また、投票所までの交通手段の改善をはかる（無料バス運行など）。全国市議会議長会は2018年度の要望書で「地方政治における投票時の移動支援に要する経費の国費によ

る全額措置」(つまり、投票所まで行くのに、遠距離になっているのでその改善にかかる経費を国負担にすることを求める)を要望しています。そうすれば、投票率の向上につながるのではないかと。高齢化が急速に進んでいます。こうした取り組みが必要ではないかと。



答弁・・・投票区の在り方については引き続き注視していく事項と捉えています。また、高齢化の進展などにより、各地区の投票所までの移動が負担になる方が増加することも見込まれます。このような社会変化を的確に捉え、投票しやすい環境づくりに努めます。

コメント・・・今回、選挙の投票率向上に向けた取り組みの必要性を求める質問を行いました。投票率が50%を切っている状況を打開するため、投票所の問題や交通手段改善など、市及び市民が協働して希望・展望の持てる政治を実現させるため投票環境の改善を実現させましょう。

市民からの陳情3件審議される

6月議会には陳情が3件提出されました。

①陳情第6号 伊勢原市情報公開制度の改善を求める陳情 (陳情の趣旨は「指定管理者」が市政に関して行った情報を市民に開示を求める陳情です。)



◎日本共産党が行なった賛成討論要旨

そもそも、市政に関する情報は主権者である市民のもので、どう施行されたか、市民が公開を求めれば明らかにすることが基本ではないでしょうか。情報を開示することは、先人が歴史のなかで勝ち取ってきた貴重で重要な民主的権利です。この情報開示がなければ、さまざまな施策が市民のために行われているかどうか判断できません。本陳情は、伊勢原市政を情報公開の点で前進させるもの。市民の権利を広げ、歴史の前進に貢献するものだと判断し賛成します。

採決に賛成は日本共産党と神奈川ネット。しかし、他会派の反対で採択されませんでした。

②陳情第7号 「子供たちに豊かな学びを保障するために、教職員定数改善、教育予算の増額、義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充を求める陳情」は全会派賛成で採択されました。

③陳情第5号 「奥山等の杉・ヒノキ放置人工林を、森林環境譲与税で計画的に皆伐を進め、天然林に戻すことを求める陳情」 全会派反対で採択されませんでした。

消費税増税中止の声実現させよう

参院選の投票日が迫ってきました。5年前、消費税は5%から8%に引き上げられました。それ以降、日本の経済はずっと低迷したまま。私達のくらしも厳しい状況が続いています。安倍総理や麻生大臣には、庶民のくらしのことは分かっていません。庶民の「増税は止めて」の声を選挙を通じてしっかり示そうではありませんか。主権者として審判を下す時です。

(宮脇俊彦)

